全世界を獲得せよ！

文責 日大全共斗連絡会議 連絡調整委員会 書記局

全都の労働者・市民・学友諸君！ とりわけ日大を受験する学生諸君！

68年日大斗争を闘い抜き，その過程で獲得した諸力量と勇気を持って，次に述べる事をすべての労働者・市民・学生諸君へのアッピールとする。

68年不正経理問題に端を発した日大斗争はその大衆的爆発より来る必然性として，70年代階級斗争に敵対し大学支配の再編成を狙って云った既成左翼＝日共の指導をうけず，全学共闘運動と正しい形で結合して斗われた。また既成左翼が斗争を放棄する事もなかった，国家と市民社会の問題を大胆に提起し，発展，そして全国の学園斗争と結合して，市民社会に極めて大きな衝撃を生じしめた。

すなわちわれわれの経験の場たる日大斗争においては日常的秩序に内在する管理と被管理の関係を大衆の前にさらけ出す事として出現した。

この我々の有つ力量を語るには我々は次の点から語らねばなるまい。すなわち68年10月8日の羽田斗争以後の成田斗争，佐世保斗争，の中で我々が手に入れた事の問題である。この斗争を手に入れた「組織された暴力」そしてそこから来る既成左翼の街頭斗争への批判と，新たなる斗争形態の創作であった。まさにこの力量と勇気が日大斗争をも，大衆の怒りを組織化し，しかも暴力をもって爆発させるにいたらしめたものである。

しかし自らの危機として70年を control する日本帝国主義は東南アジアへの資本の侵略そしてその競争力をつけるための国内市場再編成のために更なる収奪を開始した。そのための国内政策としての大学立法，及び出入国管理法等々が対国内の帝国主義的再編を許さずに斗う学生への弾圧立法としてかけられたのである。我々の日大斗争もまさに大学立法をテコとした権力側の直接の攻撃すなわちバリケードの機動隊による封鎖→ロックアウト→機動隊右翼の学内居直り，の中で後退させられてきた。

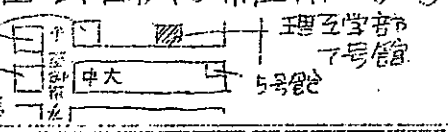
しかし，すべての学友諸君！及び受験生諸君！

新たなる戦士としてわれわれは次の点に注目せねばなるまい。すなわち権力によるー方的弾圧によって我々は圧殺されたとする客観主義的総括にのみ依居してはならない。この総括は「強大なる」日大全共斗が強大なる権力によってその活動を封じられた，という「強大なる日大全共斗」神話を自ら創り出し，自らの限界性を大衆化させないという反革命的創造をもたらすのである。そしてその日和見的展開として街頭斗争至上主義と，何等の媒介なしの安保粉砕斗争論をマンエンさせるのである。

新たなる戦士諸君！ 我々はいますぐにも権力と学校当局の二重という簡単な言葉をもってかたづけられている問題にメスを入れねばならない。そして具体的に授業再開＝正常化の中で具体的に表われてきた諸との緊張関係を設定せねばならない。更には媒介項を何に求めて権力と対決するのか，そして何を媒介として70年安保斗争，70年代階級斗争へ参加するのかを明確にせねばならない。

我々は日大斗争の中で大衆の普遍的怒りと憎しみを大衆武装として組織し，ヨロレタリア独裁と，指令の問題，そして全共斗運動を貫く一本の赤い糸＜帝大解体，組織された暴力，大衆武装＞を確定させてきた。今や我々は個別大学性，地方性，分散性，経験の狭隘性，個人主義的傾向を，全国全共斗を我々が指導するという主命題と，それを通しての全国全共斗の集約止揚（解体も含む）を目指して斗いを進めねばならない。 1970・02・21

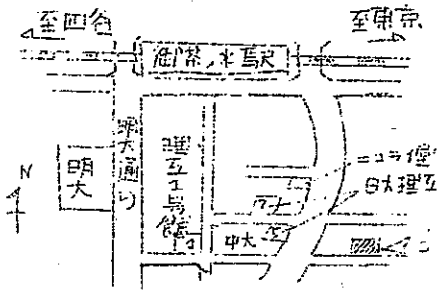
戦う同志は理五活動者会議に結集せよ！



☆連絡場所 日大理工学部7号館サークル室

5月7日 第3回 神田地区政治集会

1年4年討論集会



於：電通会館 2Fより

建斗委 情宣紙 機関紙

ロシア語で 火花

火花はやがて炎とならん。 レーニン

日本大学全学共闘会議 理工学部斗争委員会 建築学科斗争委員会 情宣局 書記局

No.42 1970年 02－22